

「第35回環境教育・環境学習ネットワーク会議」議事録

- 1 日 時：令和3年10月19日（火） 15:00～17:00
- 2 場 所：横須賀市役所3階302会議室
- 3 出席者：天白座長、桐谷副座長、内船構成員、遠藤雅弘構成員、遠藤由美子構成員、加藤構成員、高橋構成員、林構成員（計8名）
- 4 事務局：環境政策部環境企画課（島田課長、鈴木主査、大場主任、天野）
- 5 傍聴者：なし
- 6 その他：一部構成員がWebにより参加

◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 「（仮称）横須賀市新環境基本計画」における「環境教育・環境学習」について
 - (2) 「（仮称）環境教育・環境学習推進懇話会」について
- 3 報告
令和3年度「相互交流を生かした人材育成講座」等について
- 4 その他

◆ 議題1 「（仮称）横須賀市新環境基本計画」における「環境教育・環境学習」について

〔事務局からの説明〕

「新計画（案）」における「環境教育・環境学習」の推進についての現状と、今後の予定について説明する。

■ 天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

■ 高橋構成員

指標に、「環境教育指導者登録数の増加」から「環境教育・環境学習カリキュラムの充実」まで幅広く入っており、非常に良くなっている。「環境教育指導者登録数の増加を目指します」の指標に対しては、人数的な目標をどのようにしていくのか等、今後はそれぞれの指標に対して、実行するための仕組みを整理していくと良いと感じた。また、誰のためのミッションなのかを明確にして進めていくと実行性が上がると思うので、まずは目標を設定し、フォローを確実に行っていくと良いと思う。

■ 事務局（鈴木主査）

基本目標達成の目安となる指標については、「①環境教育・環境学習の推進体制づくり」、「②環境教育・環境学習の機会の充実」にそれぞれ2つの指標を設定した。

新計画は8年間の計画期間となっており、環境教育の分野の指標に具体的な数値目標を設定することも検討したが、具体的な数値目標を設定したのは、②の「市内の小中学校で自然体験学習の機会を提供します：40校（年間5校）」のみである。具体的な数値目標を設定し、達成できなかった時の評価として「目標に達成しなかったのでCです。」となっ

まうのは、例えば「環境教育に携わりたい」と、新たに環境教育指導者等派遣事業に指導者登録をした方がいる場合、増加する要素もあれば、減少する要素もある中で、増加することだけをカウントして何人増加のような目標を掲げるのは難しいと思い、数値は出していない。現在、環境教育指導者の市民ボランティアの方が10人前後いるが、年々高齢化などで減少している。環境教育指導者をフォローする補助指導者として11人登録しているが、その補助指導者を指導者の要件を満たして指導者に引き上げて行く事業を令和4年度に考えている。

高橋構成員からいただいた意見のような、新計画の指標にかかる事業についても、今後、全庁的に色々な環境関連の事業を考え作成していくので、仕組みや方法を詰め、新計画が送付される頃には、それを裏付けする事業が列挙できると思っている。また、進行管理をしていくので、件数、人数という成果も毎年報告できるところである。

■天白座長

指標の中で、環境教育指導者の登録者数が話題に上がったが、単純に資格を持っていれば環境教育指導者になれるのか、或いは資格はないが十分外部講師として力量を発揮している人もいるので、その辺の整理をした方が良いと思う。資格だけ持っていて眠らせている人も市内にいると思うので、その方たちをどのように考えるのが課題だと思う。また、これはあくまでも指標であり、「環境にやさしい社会の担い手を育むまちをめざします」が目標なので、目標に向けて必要な活動をするということが重要だと思う。

数値目標のある「市内の小学校で自然体験学習の機会を提供します：40校（年間5校）」とあるが、これは達成できる指標だと思う。個人的には、横須賀市の小・中学生は、卒業までに1回は必ず自然体験学習の機会に恵まれる環境になって欲しいと思っている。また、環境教育・環境学習というのは、決して自然環境団体からだけではなく、義務教育の中でそのような機会に恵まれ、充実されると良いと思う。

■高橋構成員

資料1の1の①に「里山ボランティア加入者の増加を目指します」、とあり、「里山講習会に参加したのち」とあるが講習会は年に何回、何人ぐらいが参加しているのか。

■事務局（大場主任）

令和3年度は、全12回の講習会を行う予定であり、募集人数は抽選で定員15人となっている。毎年、募集は15人だが、その年によって応募人数に差がある。講習会終了後に今後も活動を行っていただけるのか希望を確認し、ボランティアとして登録していただく。

■高橋構成員

今まで何人ぐらいが登録まで至ったか。

■事務局（大場主任）

現在の会員は43人である。

■高橋構成員

かなり多い。このような事業をもっと活用するような仕組みを作っていくことが大事だと思う。全12回の講習会を行った方は、是非登録していただけると良いと思う。

◆議題2 「(仮称)環境教育・環境学習推進懇話会」について

[事務局からの説明]

令和4年度から設置予定である、新たな組織「(仮称)環境教育・環境学習推進懇話会」で実施する具体的な事業についてご意見をいただきたい。

■天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

来年度から新たな組織「(仮称)環境教育・環境学習推進懇話会」を設置し、具体的な事業を行っていく。この組織が、新計画の「環境教育・環境学習」の柱の部分をフォローしていくことになると思う。

議題1の中でもあった環境教育・環境学習の目標は、環境像「人と自然のやさしさが調和した環境を未来へつなぐまち よこすか」の他の目標と比べ、「みんなが横須賀の環境を大切に思えると良いね。」というようなふわふわとしている目標である。この懇話会も、市民一人一人が横須賀の環境を大切に思えるような町に育て上げられる活動を一緒に出来ればと思っている。

■遠藤雅弘構成員

よこすかE C O通信はホームページの情報発信に切り替えるとのことだが、生涯学習センターではご高齢の方は紙媒体で見ている。ホームページに切り替えることで、紙で見えていた方が一時的に減少してしまう。生涯学習センターも情報発信はデジタルに移ってきてはいるが、紙媒体ではないと情報発信が取れない方のフォローの方法があると良いと感じる。

■事務局(鈴木主査)

紙面の構成を小学校の3・4・5年生でも理解できる内容で作成している。児童・生徒はG I G Aスクール構想などもあるが、自宅で見ると校舎のどこかに貼っていただき、紙媒体で見ると分かりやすいと考え、学校は紙媒体で配布することとした。

デジタルに移行することにより、今までどこかに行けばもらえたものがもらえないのは危惧するところがある。3,000枚の配布先のうち民間施設にも配布していたが、実際、どのくらい手にとっていただけているのか効果の検証ができず把握できてない。

学校以外はホームページに切り替えるというのは拙速にやり過ぎてもいけないところかと思うので、行政センターのような地域の公共施設は配布するなど、事務局で改めて検討していきたい。

■天白座長

逆の提案になるが、自然環境共生課は自然環境活動団体交流会を、環境企画課はこの環境教育・環境学習ネットワーク会議を行っている。会議の場に参加する活動団体もあるが、このような会議に現れてこない活動団体の主体は市内に複数存在する。特に自主保育や野外保育のグループが潜在的にそれぞれあり、農業体験をしたり、林道を歩いたり自然体験活動を行っている。大体、3歳から10歳ぐらいまでの子どもの保護者が主体で行っており、15人~20人のグループの団体がいくつかある。時々一緒に活動することもあるが、その方たちは紙面を全く見ない。何を見ているかと言うと、ホームページだがスマートフォンでしか見ない。パソコンでは見ないので、もし色々な環境学習のメニューをE C O通信に載せて参加を促すことであれば、

出来ればスマートフォンで確認できるページ構成にすると大変有効かと思う。

■事務局（鈴木主査）

環境活動を行っている市民団体を表彰する制度で、「横須賀いいね★エコ活動賞」があるが、ママさんサークルから応募があり、どのように情報発信をしているのか確認したところ、SNSを使用しているケースが非常に多い。市も公式ツイッターがあるが、紙媒体だったものをスマートフォンで見られる形にするのは難しいと思うが、スマートフォンで見られる形で作成できるのかどうか、ホームページを所管する部署に相談しながら前向きに検討していきたい。

■加藤構成員

市のLINEをコロナ関係で利用している人が多くなり、保育園関係の案内を載せたところ、応募者が昨年の何倍も増えた。今までは紙媒体やホームページに研修の募集を載せていたがほぼ応募がなかったが、市のLINEから情報発信したところ、応募が非常に増え、利用している人が多いことが明らかであった。やはりスマートフォンから確認する人が多いのだと思う。

■天白座長

技術的なことだが、検討していただきたい。

かつて15年から20年ぐらい前に「横須賀環境懇話会」というネットワークがあった。色々な市民活動団体が出席をし、横須賀の環境について話し合い、それぞれの団体の活動報告を毎月行っていた。その頃は市が市民活動団体に対して門を開いているような状態ではなく、全て市民活動団体で「横須賀環境懇話会」を組織し、その中で議論し必要があったら市の担当者と呼ぶというような活動をしていた。

それぞれの主体が今何を行っており、困っていることなどをこのような場で話し合えると良いと思う。

事務局からの提案を意見交換するよりは、まさに懇話会ということで新計画の目標を達成するためにはどのようなフォローが必要なのかを話し合える場になればいいと思っている。

■林構成員

自然環境活動団体交流会に出席しているが、自分たちの団体とは違った視点で物事を捉えているなど参考になることが非常に多い。

色々な方がこのような場に参加していただくと、お互いの刺激になりとても良いと思う。

■事務局（鈴木主査）

内船構成員にご意見を伺いたい。今後、A4両面のボリュームに落とし、「環境活動の案内」、「活動団体の紹介」、「イベントの案内」の紙面構成としたとき、どのくらいのボリュームで「季節の自然図鑑」を執筆していただけるか。

■内船構成員

他の学芸員と相談したいと思う。

■高橋構成員

学芸員の方はものすごく幅広く深い知識を持っているので、どんどん発信していただくのは

すごく大事なので是非お願いしたい。

■内船構成員

今の提案は、紙面をこれまで4面分だったものを2面に縮小する中で、「季節の自然図鑑」をどのように収めるかの問題だと思う。1/2面や1/3面で対応できるのかを検討したいと思う。博物館学芸員のコラムとして設けていただいているこのシステムを、これから先も維持できるかどうか前向きに検討する。

■林構成員

この「季節の自然図鑑」は、自分がガイドとして活動するときの参考になっている。

■事務局（鈴木主査）

新規事業として、「環境月間」啓発イベントに懇話会として出展し、懇話会に関わる各主体の方にご参加、ご協力をいただきたいと思っている。このイベントは、市が主催し、横須賀市地球温暖化対策地域協議会に協賛いただき、高橋構成員にもご協力いただいているが、温暖化対策地域協議会の立場なので、温暖化に対する取り組みがテーマになっている。

コースカで開催する最大の理由は、買い物中の親子連れが「何かやっている、何だろう。」と足を止め、温暖化に限らず、広く環境に対して気付きのきっかけになれば良いと思っている。

昨年度はコロナで中止、今年度は種を配るイベントに変更したが、それ以前は温暖化対策のライトダウンキャンペーンとして、グラスに絵を描き、ローソクと共に持ち帰り、自宅で電気を消して星空を眺め、節電していただくイベントを行っていた。

この会議は、色々な知識を持っている方が集まっているので、温暖化や節電、省エネももちろん大切だが、それ以外にも幅広く市の環境に目を向け、レジ袋、プラスチックごみの問題などを考えるきっかけになるようなイベントになるようにぜひお力添えをいただきたい。

■天白座長

懇話会の構成メンバーについて、参加していただきたい人や団体、企業の推薦があれば随時教えていただきたいと思う。

引き続き、懇話会の設置と事業化については事務局で進めていただきたい。

■桐谷構成員

各企業、いろいろな取り組みをしていると思うので、紹介する場があっても良いと思う。懇話会のあり方だが人数が固定ではなくても良いのではないかな。

■天白座長

ゲストで紹介いただくのも良いかと思う。また、YRPの中に関係する企業があると思う。

■高橋構成員

委員以外の出席については、資料2-2（仮称）環境教育・環境学習推進懇話会設置要綱 第5条の内容のことを指しているとの考え方でよろしいか。

■事務局（鈴木主査）

その通りである。

■高橋構成員

過去に「横須賀E C O大賞」や「横須賀いいね★エコ活動賞」の受賞団体に入ってもらえるのも良いと思う。

■天白座長

引き続き事務局で検討を進めていただき、次回、この懇話会についての構想を深めることができると思う。

◆報告 令和3年度「相互交流を生かした人材育成講座」等について

〔事務局からの説明〕

「相互交流を生かした人材育成講座」は、新型コロナウイルス感染症の影響による情勢を踏まえ中止。7月に実施した「教員向け環境学習講座」の概要については、[資料3](#)参照。参加者のアンケートからも概ね好評であった。

■内船構成員

多くの教員にご参加いただいた。講座自体の内容としては、毎年、夏休みに子ども向けの博物館バックヤードツアー「博物館たんけん」を行っており、今年は、前日に、「博物館たんけん」を行ったので、教員向けにアレンジし、また、その内容に加えて平和中央公園のフィールドワークを行った。平和中央公園は、植栽された植物等が今後豊かになっていくので、今後に繋がるよう見ていただいた。

教員から積極的な質問や、授業での要望を聞くことができるなど、学校との繋がりができ、重要な機会であると感じた。

■事務局（鈴木主査）

この教員向け環境学習講座は、昨年度は感染症の影響により中止であったが、令和元年度は馬堀自然教育園で自然環境体験、平成30年度は逸見学区で自然環境体験など、フィールドワークを多く行っている。教育研究所にコーディネートしてもらい、定員20～30人のところ、ほぼ定員まで応募がある状況である。

議題2でもあったが、来年度からの懇話会では、この講座にさらに力を入れていきたいと思っており、教員を通じて、子どもたちへの広がりも期待している。また、知識や経験、幅広い見識をもつ方が集まる会議なので、例えば、企業の方による工場見学など、いろいろなテーマ、メニューを導入できると考えている。

■高橋構成員

回数をもっと増やしてはいいかがか。一回は自然環境のフィールドワークのシリーズ化、もう一回は自然環境以外の内容で行うなどはいかがか。

■事務局（鈴木主査）

教員の研修は夏季休暇などの長期休暇に開催すると聞いているため、可能かどうか所管

する教育研究所に確認していく。

■内船構成員

懇話会で新たに人材育成講座を行っていくのにあたり、議題2の資料2(1)②にあるように、学校や教育委員会の教職員が参加しているので、環境教育指導者や学芸員が、学習指導要領に沿った形で、環境教育的コンテンツを含んだ講座を、話し合いなどの中ですり合わせができるのではないかと、個人的に期待している。これまでの形式だと、自分たちの方法での研修を行っており、博物館と教員のマッチングの部分では成功していると思うが、一方で、博物館として、教員と関わることができるせっかくの機会なので、教員が求めている環境教育的コンテンツを提供できるようにしていきたい。懇話会の中で、学校向けの効果的な方法などを話し合い、現状からもう1枚脱皮をするような取り組みができればよいと思う。

高橋構成員から、回数についてご意見があったが、今後は、学校のICT的なものと組み合わせ、学校の授業で使えるような環境教育的コンテンツをデジタル的な何かに作るのも可能性にはあるのではないかと感じた。懇話会で作成し、人材育成講座の1つに変えるようなイメージである。教員の方に参加していただく講座の機会は、年に1回が限度かもしれないが、学校に対して、この懇話会でデジタル配信のようなコンテンツ作りができるのではないと思う。

■事務局（鈴木主査）

デジタル配信やオンライン見学など、GIGAスクール構想などで児童に一人一台のタブレットがあれば、より導入しやすい時代になってきている。懇話会から学校に提供できるコンテンツができれば素晴らしいと思う。学校のデジタル化の現状について、教育委員会に確認する。

懇話会という新たな会議の方法についても、フレキシブルな集まり方にするなど、いろいろな手段を講じて、より緊密に連携できるように事務局で検討していきたい。

■桐谷構成員

企業で行っている環境学習のコンテンツもいくつかあるが、子どもたちや教員がどのような内容を求めているのか分かると良い。最近は新しい技術の説明を求められることが増えてきており、世の中の状況や学習指導要領の見直しなど状況が変わってきていると感じる。SDGsの内容が増えるなど、そういった流れをキャッチすることや、どの内容まで話すかと授業の内容につながるのかなど、学校とのマッチングの場として懇話会があると企業側としても有意義な会になるのではないかと感じる。

■遠藤由美子構成員

市の環境教育指導者として二つのテーマを登録しているが、現状では申し込みがない。この事業以外で、学校から個別に依頼があり、昨年度は3年生1回、先日は鷹取小学校4年生の出前授業を行った。学校の希望は工場見学であったが、感染症の影響により、現地での工場見学は難しいため、出前の工場見学と資源についての授業を行った。事前に学校と打ち合わせを行ったが、学校や学年によって考え方に差があると感じることがあるため、子どもたちや教員の意見を聞ける機会があれば企業側としても参考になる。また、他の団体や企業の方々がどのような活動をしているのか、実際に話を聞いてみたいと思う。

■天白座長

年間約40回、小学校で出前授業を行っている。子どもたちは調べるのが好きであり、授業で取り扱った生き物、外来種や絶滅危惧種について、環境省のホームページで調べてみるなど日常的に授業の中で調べる習慣があると感じる。しかし、インタープリテーションを行う人が、学校に少なくなっているため、子どもたちの考えを正しい方向に軌道修正できる人がいないことが問題であると感じている。そのため、教員のサポート資料を解説付きで作成すると、経験の少ない教員でも扱えるようになるのかと思う。

また、小学校の現場で希望することは、先ほどバーチャルでの工場見学等の話があったが、例えば、博物館のバックヤードツアーや自然教育園の自然観察などが、ウェブ上でできると子どもたちの知識の幅が広がると思う。学校が、博物館や自然教育園に行けない一番の理由は移動時間や距離であり、自分の学区に博物館や教育園があれば毎週でも通いたいという教員も多くいる。博物館のバックヤードも狭いため、子どもたちが全員で見るとは難しい。例えば、内船構成員がゴープロ等で、オンラインで標本の説明をしてくれたら子どもたちは大喜びすると思う。それが現実となれば素晴らしいと思う。

懇話会については、今後、夢を膨らませていけるような取り組みになれば良いと思う。

◆事務局から事務連絡

■事務局（大場主任）

事務連絡が3点ある。

1点目は、本日の議題について追加のご意見等があれば、10月26日（火）までに事務局へご連絡をいただきたい。

2点目は、「よこすかECO通信」第43号の掲載記事があれば、事務局へご連絡いただきたい。

3点目は、次回の会議開催は令和4年2月頃を予定しているため、改めて日程調整を行うのでよろしくお願ひしたい。

■天白座長

以上をもって、第35回環境教育・環境学習ネットワーク会議を終了する。